

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	ひらやま保育園
施設所在地	日野市東平山1-7-13 平山住宅1号棟1階
自治体名	日野市

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「からだ」

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

浅川沿いにあり、近隣に山道も多く残っている当園の自然豊かな環境を生かし、「からだ」というテーマに沿った活動が広げられると考えるため。

日々の運動遊びや自然探索活動、散歩などの様子から、運動用具や自然物、地形の特性を生かして全身を動かしながら意欲的に遊ぶ姿が見られている。また、室内においても運動用具や環境を工夫することで、全身を使った遊びを楽しみ、自ら遊びを発展させる姿が見られることから。

2. 活動スケジュール

12月から2月にかけて1.2歳児クラスの中で実践

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

【環境設定】

- ①園庭あそびの中で、準備体操として体をほぐす時間を設ける。
- ②5名ずつの2グループに分け、1グループ20分設定のプログラム活動を体験する。
- ③子どもが慣れ親しんでいる道具から目に入り、安心してチャレンジできるように配置する。
- ④全身運動が安全に出来るようにクッションや壁のガード等の安全対策を行う。
- ⑤素足で動きやすい服装を整える。

【準備した道具】

- ・ 巧技台の滑り台60cmの高さ+40cmと20cmの階段をつける。
- ・ 巧技台のはしごを寝かせて垂直に立てる。周りにクッションマットを重ねて設置する。
- ・ 長さ1m30cmのテント付きトンネルを設置する。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

室内に滑り台やはしご、トンネル、丸太状に丸めた布団などを配置し、子どもたちが自由に遊べる環境を作り、自ら色々な遊び方にチャレンジできるようにした。また、グループに分けて活動を行い、探究活動を十分に行える時間を確保した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

友だちのように滑り台を下から上ってみたいという気持ちはあったものの、少し怖さもあり、挑戦するか迷っている様子が見られた。しばらく友だちが遊ぶ姿を見てから、自ら動き出して挑戦した。保育者は状況を見守りながら、安全面で必要な部分のみ援助を行い、無事に上ることができた。

その後、すぐに二度目へ挑戦することはなく、再び友だちの様子を見ていた。しかし、楽しそうに遊ぶ友だちの姿を見て、「もう一度やってみよう」という気持ちが芽生え、自ら挑戦した。二度目は保育者の援助を受けることなく、自分の力だけで上ることができた。上り切ると「やったー！」と万歳をし、自信に満ちたうれしそうな表情を見せていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

予想される子どもの姿・身体の動き（くぐる・よじ登る・ひねる・とぶ等）がよく見られたなかで、友だちと一緒に遊ぶからこそ自然に表れてくる「これなんだ？」「こんなこともできるかな？」という興味や関心、疑問が意欲につながり、想像性を身体の動きとしてたっぷりと体感する活動となった。

主体性をもって、自分でやりたいことを考えて行動する姿が見られたことでは、自分で決める時間、環境の保障の大切さをあらためて感じた。

また、友だちと一緒に動いているからこそ「こうやればいいのか」と学びになり「じゃあ今度はこんなこともできるかな？やってみよう！」という気持ちの高まりに繋がっていくということに年齢なりの協同性の芽生えを感じるプログラムであった。